

新型コロナ・ワクチン接種が越前市民の心理的健康に及ぼす効果（報告）

【目的】

新型コロナウイルス感染症の流行は、越前市民の身体的健康を脅かすだけでなく、不安感の増大など心理的健康にも影響を及ぼしていた。これに対し越前市は、感染症流行を予防するため、2021年6月から新型コロナウイルスに対するワクチン接種を始めていた。しかしこのワクチン接種が、市民の身体的健康だけでなく、彼らの心理的健康に貢献するのか否かは明らかではなかった。そこで、仁愛大学心理学科の竹村研究室学生と越前市市民福祉部健康増進課の協働で、越前市民を対象にワクチン接種の前と後で不安感に変化が生じるのか検討を行った。

【方法】

調査対象者：越前市に住むワクチン接種の予約に来た高齢者を対象とした。

第1回目調査：2021年6月に実施した。越前市役所のワクチン予約会場を訪れた高齢者を対象に、仁愛大学学生が直接声をかけ、ワクチン接種前の不安感に関する質問紙調査について協力をお願いした。その結果、50～89歳の高齢者60名の協力を得て、ワクチン接種前の不安感に関するデータを収集できた。

第2回目調査：2021年11月に実施した。ワクチン接種後の不安感を測定するために、第1回目調査時において第2回目調査の協力を同意した高齢者に対し、ワクチン接種後の不安感に関する質問調査用紙を郵送した。回答後同封した返信用封筒にて大学へ郵送するようお願いしたところ、65～89歳の高齢者35名の回答を得ることができた。

【結果】

ワクチンを接種する前と後で、不安感が低下しているのか確認をするために、第1回調査と第2回調査の不安感に関する項目すべてに回答した高齢者（年齢幅65～86歳）30名のデータを対象に、学生が分析を行った。その結果、ワクチンを接種する前より後で、不安感が低下していることが見出された（図1参照）。そしてこの不安感の低下は、統計的にも有意に低下していることが確認された。

【付記】

本調査は、福井県 未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版 PBL 支援分）の助成を活用して実施しました。

図1 ワクチン接種前後の不安感の変化

